

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 21 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コースン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。(黙示録 21:7)

主は私たちに御子を下さり、聖霊を下さいました。

その上、神は、神ご自身を私たちに与えて下さいます。主に栄光あれ！素晴らしい！

この“成就”される場所は目を見張るだけでなく、満ち足りた所でもあります。

なぜならそこには、資源も責任ある仕事もあって、(神との)繋がりもあるからです。

そして3番目に、8節、そこは安全な場所でもあります。

しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。(黙示録 21:8)

これらの部類に当てはまる人は、新しい天と新しい地を巡ることはできません。

そこは安全で、血の付いたナイフや吠えたてる犬など、そういったものは何もなく、殺人者も嘘つきも、その他そういった人たちもいません。

興味深いですね。後ほどまた説明しますが、とにかくそこは安全な場所です。

天国では何も恐れるものはない。100%安全。でも待って。

それは外的脅威に対してだけの安全ではありません。

これらの嘘や殺人や憎むべきことは、あなたや私の内面にも存在します。

「人に対して怒りを抱くことは殺人と同じだ」(マタイ 5:22) とイエスは言いましたね。

一度も嘘をついたり、誇張して大げさに言ったり、真実を捻じ曲げて言ったりしたことのない

人がいますか？

恐れを抱いたことのない人がいますか？ 恐れとは信仰が足りないことだと言われますが、恐れ、嘆き、不満を口にしたことのない人がいますか？

「何でこんなことに…」 「次はどうなるんだろう…」

これは恐れ以外の何ものでもなくて、「臆病者は王国に入れない」とあります。

見ての通り、これらは私たちの肉の一部で、私たちはみんな有罪なのです。

「なら、どうやって王国に入るんだ!？」

それは、イエスの血潮が、私たちを、全ての罪から洗い清めてくれたことによって。

私は、これは本当に祝福だと思いました。

そしてすごいニュースがこれ！ 皆さんに素晴らしいニュースですよ！

信仰の欠如から来る恐れ、不躰な態度、自己中心・・・私の肉の部分がやらかすこと、この肉にはもう辟易します。

皆さんもそうでしょ？ というより、あなた自身の肉のことですよ。

そうでしょ？ どうですか？

私は自分の肉には、ほとんど嫌気がさしています。

歳を取るに従って、また主と共に長く歩けば歩くほど、自分の態度や肉の欲、心にある汚い感情や思いがつくづく嫌になるのです。

それが一時のことであれ、日常的であれ、本当に嫌いでたまりません。

だからすごいニュースなのです。なぜなら、これらのものは中に入れないから。

私はそのことが嬉しい。

つまり、私自身であるこれらが、常に赦され続けてきたこれらのものが、焼き尽くされ取り除かれて、永遠の目的地ではそれらは入って来ないのです。そのことが本当に嬉しい。

ということで、ここまで新しい創造を見てきました。次は、新しい都を見ましょう。

2 節で触れられている新しい都、新しいエルサレムを 9 節から見ていきます。

また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。

「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」(黙示録 21:9)

そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。(黙示録 21:10)

都(エルサレム)には神の栄光があった。

その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。(黙示録 21:11)

この輝く新しい都は驚くべき所です。

それは天から下って来ますが、使われている表現によると地上に着地しません。えっ!?

地上で停止して浮かんでいるのです。

輝く新しい都、真新しい創造、新しい天と地。

新しい都は、新しい天と新しい地との間で停止して浮かんでいます。

その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。(黙示録 21:11)

聖書の中で石について語られる時は覚えておいて下さい。

ここの碧玉は、私たちが言う“碧玉”(jasper)ではありません。

新約聖書の中の“碧玉”とは、今で言う“ダイヤモンド”

だから、「透き通った碧玉のようだ」と書かれているのです。これはダイヤモンド。

新しい都がどうしてダイヤモンドのようなのか、と思うでしょう。

ダイヤモンドとは何ですか？

それは、何の価値もないただの石炭の塊が、長い長い年月をかけて、熱と圧力の影響を受けて出来たもの。それ以外の何ものでもありません。

まさに皆さんや私。私たちは真っ黒な石炭に過ぎない。

でも主は言われるのです。「わたしはあなたの中に可能性を見ている。」「わたしはあなたを花嫁として見ている。」「この新しいエルサレムも花嫁だ。」「わたしはあなたにダイヤモンドのような可能性を見ている。」〈主よ、本当ですか?〉「そうさ。」〈わあ!〉

長い年月の熱と圧力。あなたも炎熱の試練を通り、圧力を受けているでしょう。

けれどもそれらが働いて、あなたの中に栄光が輝くのです。素晴らしい!

新しい都、花嫁の住まいのエルサレムは、全体がダイヤモンドのような外観です。

都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、(黙示録 21:12)

これ、知っていましたか? 新しい都の 12 の門にいるのは御使いたち。

ペテロの名前は一度も出てきません。皆さん、ペテロは門の所にはいませんよ。

これまでに何を聞こうが、あなたがどう思おうが、正真正銘の真実は、ペテロは門にはいない。実際、多くの人が、ペテロが門にいるイメージを持っていますが、見ての通り聖書は、それは違う、それは真実ではないと言っています。

門は 12 あって、そこには御使いがいます。ここ見て下さい。

(それらの門には) **イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。(黙示録 21:12)**

興味深いですね!

私たちが永遠に入るということには、私たちはイスラエルに対して、ユダヤ人の相続に対して大きな恩があるのです。本当にそうですよ。

私たちは、契約も、ヤハウェに関する知識も理解もなく、迷い出ている異邦人でした。

霊的ないのちを得るには、一つの入口しかありません。

パウロは言いました。

「あなた方は“接ぎ木”されたのだから、根を見下してはならない。」(ローマ 11:17, 18)

それで、そのことを思い出させ、私たちが永遠に覚えておくために、新しいエルサレムの門に 12 部族の名がつけられて永久に示されているのです。

私たちは、ユダヤ人に、イスラエルの民に恩があるのです。本当に。

東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。(黙示録 21:13)

12 の門にイスラエルの 12 部族の名が書いてあって、これが入り口です。

また、都の城壁には十二の土台石があり、(黙示録 21:14)

都の城壁には 12 の土台石があり、それに書いてある名前は？

それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。(黙示録 21:14)

つまり私たちは、重要な伝統と歴史を持つユダヤ人コミュニティを通して中に入りますが、それらが建てられているのは使徒の上。

イエス・キリストご自身は何でしたか？ 最重要の“礎石”でした。(エペソ 2:20)

私たちの信仰の土台は、使徒たちに託され、私たちに伝えられた福音です。

12 部族の 12 の門と 12 使徒の名が書かれた 12 の土台石。

この都には土台石があるのです。

心に留めておいて下さい。

彼（アブラハム）は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。

その都を設計し建設されたのは神です。(ヘブル 11:10)

自分の求めるもの、待ち望むものが地上にはないことを、アブラハムは分かっていました。待ち望むものとは、“堅い基礎の上に建てられた都、新しいエルサレム”

だから彼は生涯、天幕に住みました。父アブラハムは、実に多くのことを教えてくれます。彼は、この地上では待ち望むものを見つけられないことを知っていたので、とてもシンプルな生活をしました。

“次の家”とか“更なる出世”とか“もっと良い車”とか何であれ「それさえあれば幸せになる！」

しかし、「違う。こんなものには意味がない」とようやく気付いた時、望むものは世には見つからないと悟った時、私たちもアブラハムのように真に自由になり、人生を楽しむことができるのです。言わば天幕生活。ものをため込まない。

私がいつも言って励ましているように、あなたも大抵のことを深刻に受け止めないようになります。

「私が待ち望む都には一つだけではなく、たくさんの基礎がある。」「新しいエルサレムを待ち望む。」「天国を切望している。」「ここに書かれているものを待ち望んでいるんだ。」

それはこの地上のものではないので、もうがむしゃらになることも、世のものに囚われることもなく、真の意味で自由になるのです。

ということで、アブラハムが待ち望んでいた堅い基礎を持つ都が、21 章で語られている新しいエルサレムです。

また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。(黙示録 21:15)

都は四角で、その長さとは幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオン（約 2,200 km）あった。長さも幅も高さも同じである。(黙示録 21:16)

この浮いている都、新しいエルサレム、私たちが住む都は、12 の階、12 の土台石を持つ 2,200 km

の立方体。その大きさは 30 億平方マイル。(7,700,000,000 km<sup>2</sup>)

ところで、現在、世界の人口は 50 億~60 億人 (1997 年) ですが、史上今までに存在した全人類の 90%が、現在も生存していることを知っていましたか？ これは多くの人が知らない驚愕の事実です。

それはともかく、世界人口が 50 億人プラス  $\alpha$  で、仮に救われた人が 30 億人いたとして (かなり多く見積もっていますが) 天国に行ったなら、それぞれが一人につき 2.5 km<sup>2</sup>与えられるということです。ビックリです。巨大ですよ。

30 億平方マイル (7,700,000,000 km<sup>2</sup>) とは、基本的には月と同じくらいの大きさで、まさにその都が浮かんでいるのです。実際にそうなるのです。

また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュス (約 65m) あった。これが御使いの尺度でもあった。(黙示録 21:17)

これは大きな城壁ですが、この都の規模で言うとそれほどでもありません。都は高さも幅も長さも 2,200 km。だから城壁と言っても、実際には小さなフェンスのような感じですね。

その城壁は碧玉 (ダイヤモンド) で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。(黙示録 21:18)

頭に描いてみて下さい。ダイヤモンドに金。そこは煌びやかなイメージで、説明できないほどの輝き。その上このダイヤモンドのような都は、

混じりけのないガラスに似た純金でできていた。(黙示録 21:18)

都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。

第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、(黙示録 21:19)

第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、

第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。(黙示録 21:20)

この巨大な都の土台石は宝石です。これらの宝石が何であるかについては断定できません。証明できないので誰も確かなことは言えないけれど、私は個人的には確かにこう思います。

これらの“新約聖書”の宝石はギリシャ語のものです。

“旧約聖書”時代はヘブル語で、出エジプト記 28 章には 12 個の宝石が書かれており、大祭司の胸当てにも 12 の宝石が付けられていました。

証拠が示唆しているのは (今日はその全てを説明しませんが)、この 12 の宝石は同じものだと考えられる、ということです。

「だから、何だ？」

出エジプト記 28 章の宝石と大祭司の胸当ての石は、イスラエルの 12 部族を象徴しており、ユダヤ教超正統派のラビはこのように教えます。

人が大祭司のところに行って相談すると、大祭司は神に尋ねます。すると胸当ての宝石が光ります。それぞれの宝石には各々 12 部族の名前が付いており、光った石の部族名の最初の文字を拾っていくと、答えのキーワードとなる文字が与えられるのです。

YES とか NO とか、はあ？とか、本気なの!? とか何とか。

「つまり、何を意味しているの？」

よく聞いて下さい。

旧約聖書時代、神の指針は、神の民、神の家族を象徴する石を通して語られました。

恐らくそれと同じ石が、使徒たちの土台石なのです。

何が言いたいのかというと、神のみこころを知りたいければ、神の家族と“つるむ”こと。

あなたの人生に関する神の指針、みこころは、神の共同体と関わっていれば分かります。

人がトラブルに陥るのは、その共同体との交わりを止めた時。

神の家族、兄弟姉妹たち、伝道者たちとの交わりを止めた時です。

土台がなく自分で判断しようとする。

それはみこころから逸れているのに、自分では適っていると思っている。

そのような道を選び取って進もうとしている人たちを見ると、とても残念に思います。

なぜならサタンの手口はいつも同じで、クリスチャンを神の家族から離し、孤立させる。

そうして、そのクリスチャンは間違った方向へ導かれ、本人はそれが神の計画だと思っていますが、最後はめちゃくちゃになって押し流されてしまうのです。

一番安全な場所は、神の家族の兄弟姉妹や伝道者たち、ウリムとトンミム、土台石。これらが道案内です。これについてもっと話したいけど今日はしません。でも皆さん、このことはよく考えてみて下さい。

とにかくこの新しいエルサレムには土台石があり、使徒たち、共同体が基盤となっているのです。興味深いですね。

#### また、十二の門は十二の真珠であった。(黙示録 21:21)

なぜ真珠？ 真珠とは何ですか？ USA Today 誌の記事によると、二枚貝の殻の中で真珠になる物は二つあって、ザラザラした砂粒と小さな虫。

真珠とは何でしょうか？ それはあなた、そして私。ザラザラして虫けらのよう。

そんな私たちを神はどうされますか？ 主は義の衣で包んで下さいます。

まるで二枚貝のように。そこにいるべきではない砂粒や虫けらを引き寄せて、それらを覆われるのです。

何重にも何重にも何重にも何重にも、幾重にも幾重にも層をなし、遂に真珠になるまで覆って下さる。

真珠は神の人々を表します。私たちは“高価な真珠”で、人はこの真珠を買うために全ての持ち物を作り払いました。(マタイ 13:45 - 46)

真珠とは、あなたと私。全てを手放したのは、それは、主。

主は私たちのためにご自分のいのちを手放しました。

私たちは主のために全てを投げ出してはいません。

主が真珠ではなく、私たちがザラザラした砂粒で、主があなたや私のために全てを投げ出し、そして美しい者として下さったのです。

何によって？ 主の恵みによって。主の栄光のために。

私たちはただの虫けらに過ぎません。でなければザラザラした砂粒。

それを、主が衣を着せて覆って下さり、「あなたはわたしにとって宝石だ。」「ジョン、あなたは宝石、トロフィーになって、全ての被造物が永遠に感嘆するだろう。」

門はそれを思い出させるものであり、真珠の門です。

どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。(黙示録 21:21)

私たちは、いつまでも続く都をこの地上に持っているのではなく、むしろ来たるべき都を求めているのです。

それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。

善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。(ヘブル 13:14 - 16 新改訳 2017)